

# 研究通信

No.166

1991年9月30日刊  
村落社会研究会  
事務局  
同志社大学人文科学研究所  
庄司俊作  
京都市上京区今出川通烏丸東入ル  
TEL.075-251-3957

## 第三九回村落社会研究会大会プログラム

第一日(一〇月一日)午前九時開会

自由報告(報告二五分・質疑一〇分)

① 堀口 貞幸(九:〇〇)~九:三五

「信州伊那の御館被官制について」

② 中澤進之右(九:三五)~一〇:二〇

「農山村親子の郷里への帰属意識に関する実証的研究」

——長野県南佐久郡過疎三町村における事例分析——

③ 小内 純子(一〇:一〇)~一〇:四五

「戦後農政の展開と北海道稲作中核地帯における農民層の主体的対応の変化」

④ 鷹田和喜三(一〇:四五)~一一:二〇

「移住漁民の講集団の形成と母漁村の文化的背景の比較考察」

——釧路市の日枝講・善友講の事例——

⑤ 小林 公能(一一:二〇)~一一:五五

「地域農業振興格差の分析」

⑥ 徳野 貞雄(一一:五五)~一二:三〇

「混住化社会の分析枠組」

昼食 一二:三〇~一三:三〇(運営委員会)

⑦ 木下 英司(一三:三〇)~一四:〇五

「旧中国農村・家族再考」

——青浦県徐洋郷旧康家橋の事例——

特別自由報告

王 仁權(一四:〇五)~一四:五〇

「韓国農家主婦の地位変化要因」

休憩 一四:〇〇~一五:〇〇

課題報告(報告四〇分・質疑一〇分)

「日本農業・農村研究の課題を求めて」

——家族経営危機の国際比較:環境問題・農業危機・集落機能の接点としての家族経営危機——

△司会▽安孫子麟・長谷川昭彦・松田苑子

北原 淳宿題委員長

共通課題主旨説明(一五:〇〇)~一五:二〇

① 磯辺 俊彦(一五:二〇)~一六:一〇

「家族制農業の存在構造——現代の危機を考える——」

② 高山 隆三(一六:一〇)~一七:〇〇

「ECの農業政策」

総会 一七:〇〇)~一八:〇〇

懇親会 一八:三〇)

第二日(一〇月二一日)午前九時開会

③ 河村 能夫(九〇〇〇九二五〇)

「アメリカ合衆国における農業企業化と地域社会の福祉」

④ 李 成鎔(九二五〇〇一〇二四〇)

「韓国農業における家族経営の危機」

⑤ 佐藤 康行(一〇〇四〇二一三三〇)

「北タイ農村における農業経営の変容」

休憩 一一三〇〇一四一四五

宿題委員会・地区研究会報告 一一四五〇一二三〇

昼食 一二三〇〇一三三〇(運営委員会)

共同討議 一三三〇〇一六三三〇

閉会 午後四時三〇分

第三九回村落社会研究会大会要項

① 日時 一九九一年一〇月二〇日(木)午前九時から

一〇月二一日(金)午後四時三〇分まで

② 会場 楷川村福祉会館

(中央線木曾平沢駅下車徒歩十分楷川村役場隣り)

〒三九九一六三 木曾郡楷川村大字平沢

☎ 〇二六四一三四一三〇〇一

③ 会費 大会参加費 二、〇〇〇円

宿泊費 七、三〇〇円(一泊二食付き)

懇親会費 四、〇〇〇円

昼食代 八〇〇円

④ 取消 取消は一〇月四日までにご連絡ください。その後の取消については違約金をもらい受けることがあります。

⑤ 連絡先 大会事務局 信州大学・黒崎八洲次良

〒三六〇 松本市旭三一一一

☎ 〇二六三三三五一四六〇〇(内線三二五二)

又は 〒三九九一八二 長野県安曇郡豊科町高家五二二一

八四

☎ 〇二六三三七二一五四〇八

⑥ 交通

宿泊先 楷川村保養センターなら荘 ☎ 〇二六四一三三〇

中央西線奈良井駅(特急停止せず)

大会会場の福祉会館へは送迎バス利用

・JR 東京から 中央本線―中央西線

三時間三十分

名古屋から中央西線 二時間

大阪から 新幹線―中央西線

三時間三十分

・車 東京から 中央高速塩尻IC経由

国道19号線 二時間二十分

名古屋から中央高速中津川IC

国道19号線 二時間三十分

